

1-2-1 高齢者保健福祉・地域福祉 1 各施策の大纲を構成する最も基本的な単位となる30の施策。

細分野	5年後のまち【P】	評価【C】
① 地域包括ケアシステム	① 自助・互助・共助・公助のバランスの取れた包括的な支援・サービスの整備が進んでいる。 3 各細分野において、市民や事業者、行政が共に5年後に実現を目指す将来の暮らしや、まちの姿、行動を示したもの。	進捗度 5年後のまち実現に向けて得られた成果 5 〇成果: 昨年度の取組により、「5年後のまち」実現に向けて得られたこと 〇課題: 「5年後のまち」を実現するにあたって残っている課題
		C1 5年後のまち実現に向けて解決すべき課題 介護予防事業については新型コロナウイルス感染症の影響により参加者が、教室の受け入れ可能人数を増やすことは容易でないため、地域の通が必要である
		指標【C】 ① 介護予防・日常生活支援総合事業参加人数(人)
		200,000 150,000 100,000 50,000 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 110,543 111,199 117,196 138,651 152,656 154,182 155,718 89,076 157,254
26.9% (参考) 前回 -%		
② 認知症対策	細分野: 30の小分野のもと、79の細分野を設定したもの。	進捗度 5年後のまち実現に向けて得られた成果 6 「5年後のまち」の実現に向けて、その達成度を測る「ものさし」として設定した指標の実績値及び各年度において目指す値。 5年後のまちの進捗度を6段階で選択 A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である
B2	② 認知症サポーター養成人数(人)	
23.6% 前回 -%	目指す値 R3 11,443 実績値 R3 12,893	
③ 地域福祉活動	③ 地域住民が地域福祉活動に参加しやすい環境が整い、住民同士の支え合いが広がっている。	進捗度 5年後のまち実現に向けて得られた成果 B2 新型コロナウイルス感染症の影響により多くの通いの場が休止し、また再開については地域差がある。令和3年度は新規立ち上げ件数は多くなかったが、元々ある通いの場の再開にむけて尽力することにより、多くの教室が継続している。 5年後のまち実現に向けて解決すべき課題 新型コロナウイルス感染症の影響により無くなった場所も多い。改めて市内全域に対して通いの場の啓発を行っていく必要がある。また、高齢者の緊急時の支援を強化するため、自治会だけでなく地域のケアマネや民生委員・児童委員、福祉避難所等との連携を進める必要がある。
B2	指標【C】 ③ 住民主体の「通いの場」の数(箇所)	
35.7% (参考) 前回 -%	200 100 0 127 133 147 161 175 188 R3 161 R3 161	
	7 「5年後のまち」について、市民の実感としてまち全体がどの程度実現しているかをアンケートで調査。(※令和2年度市民満足度調査結果)	11 「市民ができること」について、市民の取組状況をアンケートで調査。(※令和2年度市民満足度調査結果)

5年後のまちの実現に効果のあった取組(効果のあった取組から順に)【D】	取組(協働)による5年後のまちへの効果の内容とその根拠【D】
① 2 自立支援に向けた介護予防・重度化防止を進めま	令和3年度では、のべ440人を対象とした地域ケア会議を35回実施し、本人のやる気や、もう一度あの場所へ行きたいといった希望にそった自立支援・重度化防止を推進した。短期集中の通所型サービスにおいては70%以上の改善率があり、本人、家族、事業所、地域包括支援センターなどが成長を重ねることで5年後の自立支援への取組につながった。
① 1 介護(1)	「行政の5年間の主な取組」に掲げる項目のうち、特に「5年後のまち」の実現に向けて効果のあった取組を3つ以内で選択。 9 選択した各取組について、昨年度に実施したこと(他主体と協働したこと)、実施したことが「5年後のまち」の実現にどのように効果があったかの説明。
① 4 地域での助け合い・支え合いの仕組みづくりを推進します。(地域包括ケア推進課・福祉政策課・地域コミュニティ推進課)	地域での助け合い・支え合いの仕組みづくりを推進します。(地域包括ケア推進課・福祉政策課・地域コミュニティ推進課) 10 新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、啓発などについては一定の成果または、維持、継続することができた。令和4年度以降については認知症についての啓発のほか、誰しもが安心して参加できる場所やそのための支援にむけて取り組んでいく。
進捗度向上に向けた今後の取組【A】	
② 1 認知症に関する理解を深めるための普及啓発を充実します。(地域包括ケア推進課)	新型コロナウイルス感染症の影響もあつたが小学生なども含め、966人に認知症サポーター養成講座を実施した。同講座の受講者は12893人となり、5年後のまちへの効果としては確実に啓発が進んでいると言える。
② 4 認知症本人や家族に対するケアの充実に向けた取組を強化します。(地域包括ケア推進課・介護保険課)	認知症やその疑いのあるかた、不安なかたに対する物忘れ相談事業は新型コロナ禍にあつても継続実施したことで31人の利用があつた。同様の取組を継続し啓発をつづけることで、5年後の安心してくらす街につながつた。
② 5 認知症高齢者および家族の安心・安全を確保するために地域の見守りネットワークの構築を進めます。(地域包括ケア推進課)	認知症の有無や、障害その他の理由に関わらず、誰もが安心して参加できる場所は今後の高齢者の健康維持のためにも重要である。認知症カフェについては件数は増えてはいるが、地域の主体となっているかとは協議を重ね、支援をおこなってきた。これによって、継続実施につながつたほか、回数もふやすなどの結果にもつながつていく。
進捗度向上に向けた今後の取組【A】	
③ 1 自治会、老人クラブ連合会、民生委員等と連携強化し、通いの場の拡充を図ります。(福祉政策課・地域包括ケア推進課)	老人クラブ連合会などにも声をかけ、地域の通いの場の代表者交流会を開催した。新型コロナウイルス感染症の拡大もあつたが63名のかたに集まってもらい、コロナ禍における健康維持や体操のポイントについて大学教授から講義いただくなどしたことにより、地域の通いの場の継続につながつた。また改めて再開に対して悩んでいる自治会などに市職員も積極的にかかわるなどしたことにより通いの場の維持に努めた。
③ 4 高齢者の閉じこもりや孤立防止等の支援を行います。(福祉政策課・地域包括ケア推進課)	総合事業の枠組みなどを利用し、個別訪問事業なども活用して、外出機会の確保につなげた。新型コロナウイルス感染症の影響がでてくるのはこれからであるが、今後とも地道に継続することで、5年後のまちに対してマイナスの影響が残らないようにつとめていく。
③ 5 高齢者の緊急時の支援対策を行うとともに、緊急時に対応できるよう、地域や関係機関との連携により支援体制の整備を進めます。(福祉政策課)	災害時要援護者避難支援事業の実施により、緊急時に支援が必要な高齢者を地域の中で見守り、支える体制を整備している。また、日常生活における見守りについても、高齢者見守り協力事業者の充実により、迅速な対応に効果を挙げている。
進捗度向上に向けた今後の取組【A】	
地域での活動については新型コロナウイルス感染症の影響が一定あつたものの、地域における支え合いの必要性や、通いの場の重要性を認識する機会ともなつた。今後は改めて、こういった新興感染症その他のリスクや人口動態の変動などの側面からも、地域活動の重要性を益々啓発することで、活発な活動につなげていく。災害時要援護者避難支援事業の対象者は年々増加傾向であるが、一方、高齢化に伴い地域の支援者の人員が不足している。ハザードマップの活用により支援必要度の再確認を行う。また、広報等による周知徹底により制度理解を深めるとともに地域のケアマネや民生委員・児童委員、福祉避難所等、関係者との連携を進める。	
A: 5年後のまちをすでに実現している B1: 5年後のまちの実現に向けて順調に進んでいる B2: 5年後のまちの実現に向けて概ね順調に進んでいる C1: 5年後のまちの実現にはもう少し努力が必要である C2: 5年後のまちの実現には努力が必要である C3: 5年後のまちの実現には相当努力が必要である	

「市民ができること」取組状況	【市民満足度調査 R2. 8月実施】	「分取り組んでいる」+「取り組んでいる」	(参考) 前回
① 高齢者を地域の中で支え合う活動に参加している。		9.8%	-
② 認知症について理解し、地域の中で支え、見守っている。		14.6%	-
③ 近所の1人暮らし高齢者を把握し支援している。		11.4%	-

12 (参考) R3総合計画審議会からの「5年後のまち」実現に向けた提言等

・認知症力
加できるよう
・細分野③地
い。

前年度総合計画審議会からいただいたご意見等を記載。
※検証後は今年度のご意見に書き換えます。

指標を検討された